

齊雲山探訪記

大形徹・木崎香織・趙婧雯・仇詩琪・大野朋子

齊雲山は、現在、道教の四大名山の一つとされている¹。四大の一つということは中国で四番目ぐらいに有名な道教の聖地なのだろう。我々五名は2014年11月に江西省の龍虎山(七十二福地)で開かれた道教の学会に参加する途上、安徽省の齊雲山を訪れた。拙稿はその報告である。

これまで訪れた洞天福地調査の場所では、多くの道士や道教関係者と話をした。彼らとの会話の中で風水という言葉が、何度もあらわれた。齊雲山も風水の良さが感じられる場所であった。齊雲山は洞天福地と呼ばれているが、十大洞天・三十六小洞天・七十二福地の一つではない。しかしながら、その真仙洞府には、十大洞天・三十六所靖廬洞天・海中五岳洞天・七十二福地という碑刻²があり、洞天福地の趣がある。また『齊雲山志』³には「桃源洞天亭(在桃花澗)」⁴「蓬萊洞天坊(紫霄崖下)」⁵と実際の建物に「洞天」の名が使用されていたことがわかる。また『齊雲山桃源洞天志』⁶と書名にも使われている。

中国道観志叢刊10『齊雲山志』の高小健の序には、

齊雲山のもとの名は白岳山であり、江南道教の名山である。安徽休寧縣の城西十五キロメートルのところに位置し、海拔一千メートル余り。唐朝の道士、龔栖霞がこの山で修煉隠棲し、明代には宮觀が隆盛をきわめた。嘉靖帝の敕命で建てられた玄天太素宮のときに規模が最大となり、清代は衰微にむかった。乾隆帝が南巡した時、「天下無雙勝境、江南第一名山」と譽めた⁷。

と、乾隆帝が「江南第一名山」と述べたとされる。

齊雲山は安徽省、黄山の近くにあり、海拔一千メートル余り⁸と記されているが、実際には586メートルと、それほど高い山ではない。『齊雲山志』でも唐の司馬承禎(643-745)や杜光庭(850-933)が説いた十大洞天・三十六小洞天・七十二福地には齊雲山は入っていない。唐代から道士が隠棲して修煉したようだが、当時はそれほど注目される場所ではなかったのであろう。ここには張三豊(1247-?)の墓がある。かれは明代の道士である。現代では齊雲山は道教の聖地、四大名山の一つとされている。そして洞天福地という標識も掲げられている。

実際にこの地を訪れてみると、そのことは十分、納得がいく。明、唐寅(1470-1524)の碑「紫雨肖宮玄帝碑」等の石碑がある山道を登りつめると、

注1…古典の典拠があるのかは不明。

注2…これについては別稿で考察した。

注3…明、魯點編、『齊雲山志』江蘇古籍出版社。2000年、中國道観志叢刊10。

注4…卷之一、宮殿。()は割注。

注5…同上。

注6…明、魯點輯、清、道光十三年(1833年)刻本。江蘇古籍出版社。2000年、中國道観志叢刊9。

注7…齊雲山原名白岳山、爲江南道教名山、位於安徽休寧縣城西十五公里處、海拔一千多米。唐朝有道士龔栖霞於該山修煉隱棲、明代時宮觀興盛一時、以嘉靖皇帝敕建之玄天太素宮規制最大。清代趨於衰微。乾隆皇帝南巡時、譽爲『天下無雙勝境、江南第一名山』。([齊雲山志]見開き頁。)

注8…『齊雲山志』卷之一、山水の「齊雲山」の割注に「高五百餘仞」とみえる。

注 9…詹石窗著、文津出版社 1994 年、道教文化叢書 3。

山がアーチのようになっている。天門と呼ばれる場所である。そこをぬけると一気に視界がひろがる。すぐ下方は三方を山に囲まれた、すり鉢のようになっており、その中心には太極図のような円形の文様が描かれている。さらに下方には池がみえる。太極図の中心に立つとあたかも周囲の気が、そこに集まり、体中に気がみちてくるような感覚におちいる。そこには小さな洞窟があり、雨君洞・玄芝洞などと名づけられていた。そこには道教の神が祀られていた。このあたりを真仙洞府と呼んでいる。風水の観点からみてもすばらしい場所なのであろう。『道教風水学⁹⁾』では、第二章 道教文献考査で、一、道蔵内の風水文献 二、蔵外道教風水文献の項目をたて、道教と風水の親近性を探っている。また第三章 道教風水学之特徴与要則では、二、道教風水学的仙家性の 2. 道教風水学与洞天福地勝境という項目をたてて、風水と洞天福地が関連すると述べている。

※拙稿は大形徹「中国の風水思想と洞天福地」（「エコ・フィロソフィ」研究 Vol.10 別冊 10、27-39、2016-03 URL <http://id.nii>）に記した内容を齊雲山に絞ったうえ、加筆修正したものである。

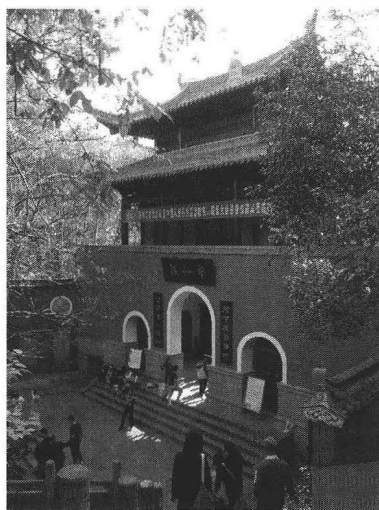
※別稿では碑刻の洞天について考察した。

参考文献

- ・程声長主編『齊雲山石刻』西泠印社出版社、2014 年。
- ・明、魯點編、汪桂平點校『齊雲山志』（附二種）社会科学文献出版社、2015 年。
- ・明、魯點輯、『齊雲山桃源洞天志』清、道光十三年（1833 年）刻本。江蘇古籍出版社。2000 年、中國道觀志叢刊 9。
- ・明、魯點編、『齊雲山志』江蘇古籍出版社。2000 年、中國道觀志叢刊 10。



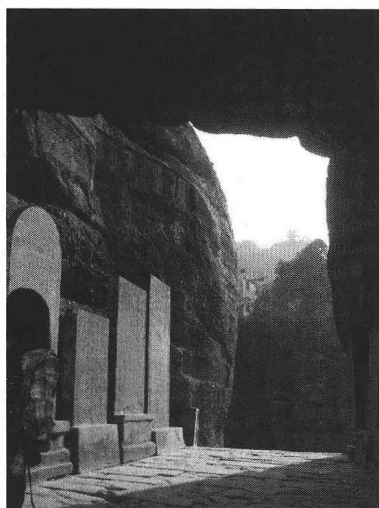
齊雲山から見下ろした風景



望仙楼



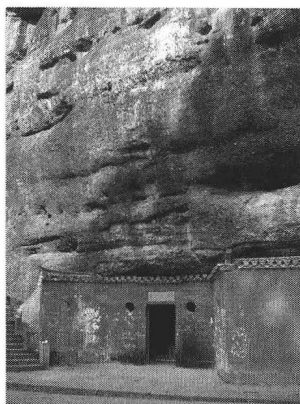
張三豊得度の地とされている



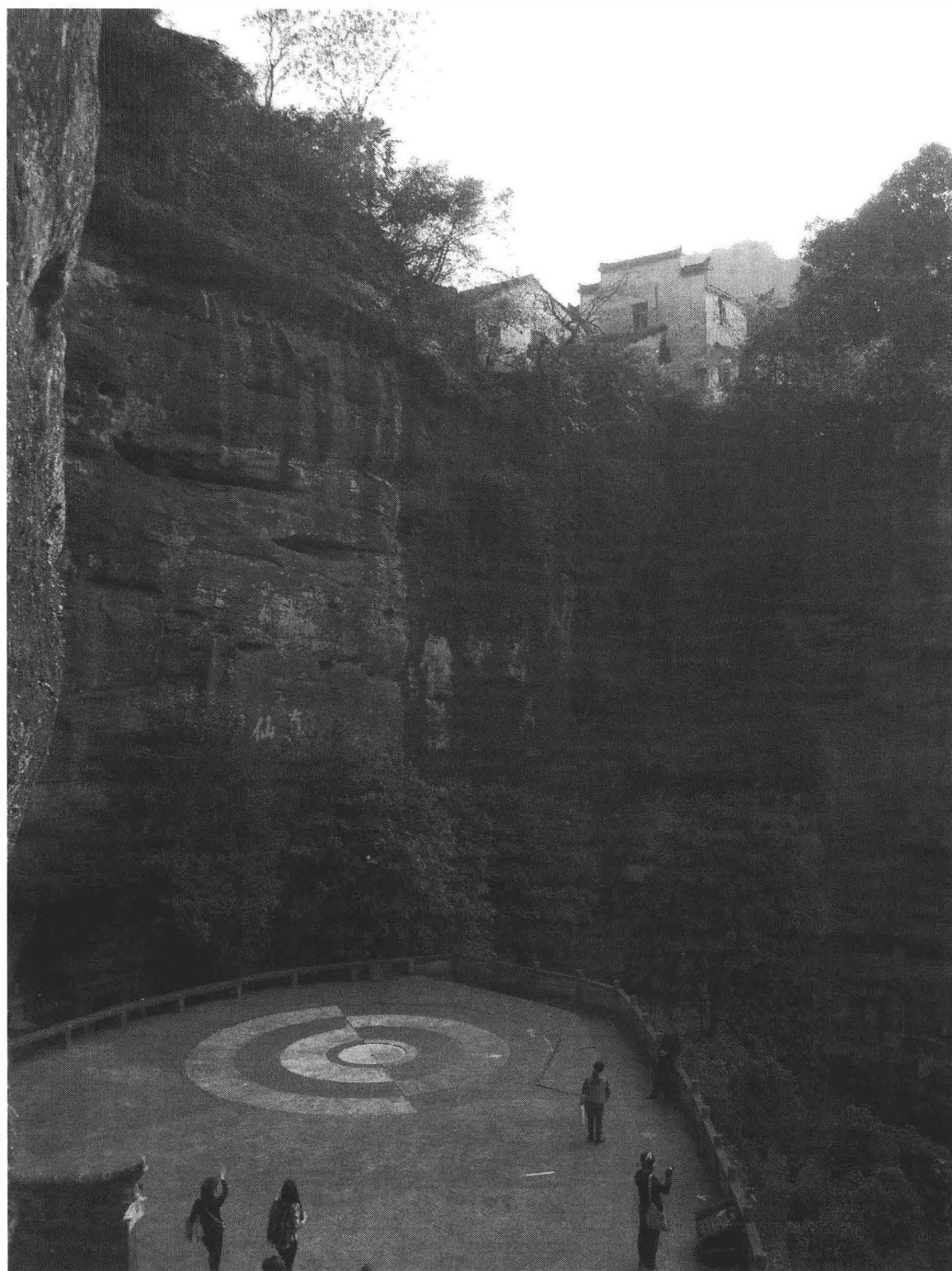
アーチを抜けると形式が一変する



香炉峰



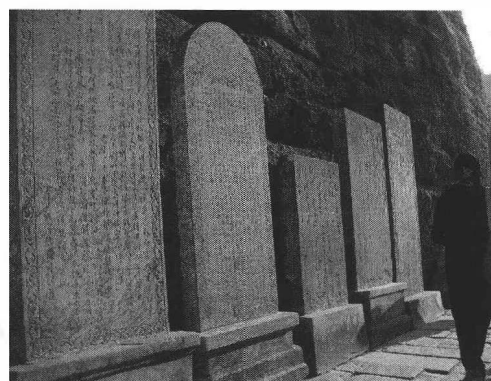
門がある



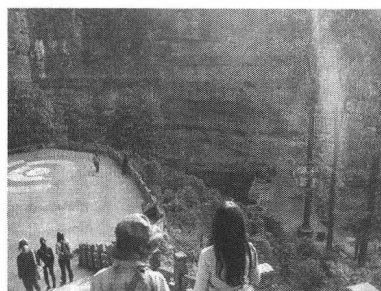
見下ろした風景



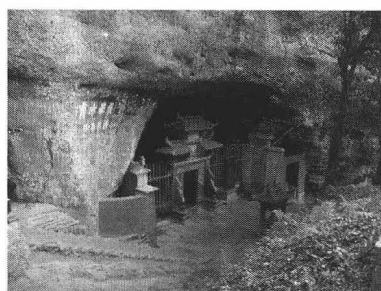
洞天福地の案内板



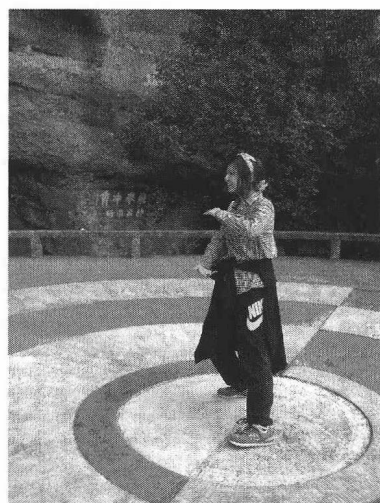
碑刻



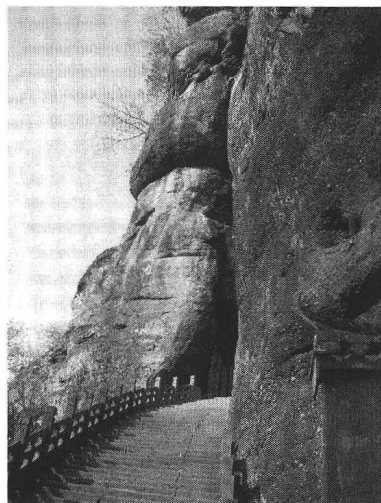
階段を降りていく



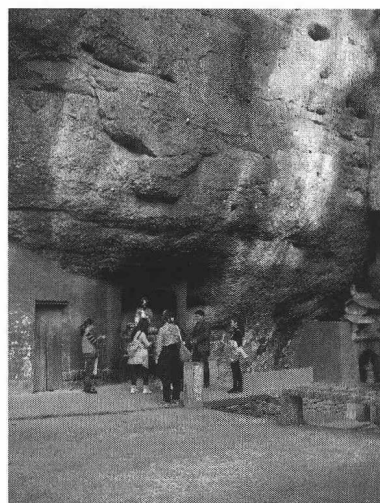
衆妙之門



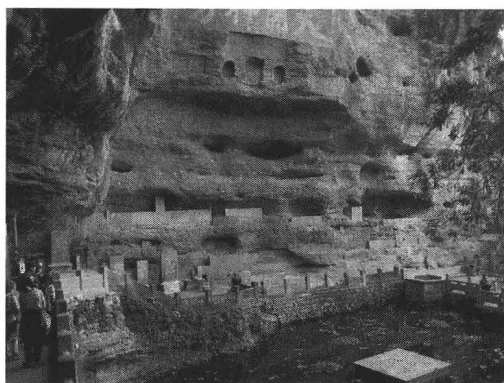
太極図で気を集めるポーズ



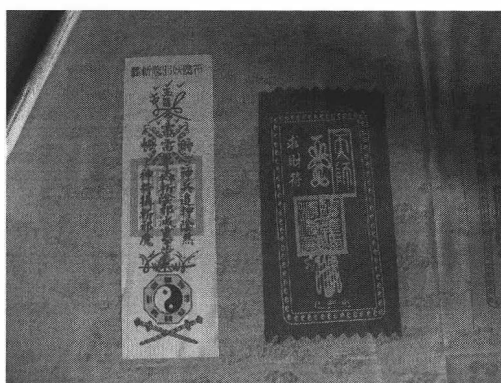
天門を抜けたところ



神像と虎



雨君洞付近



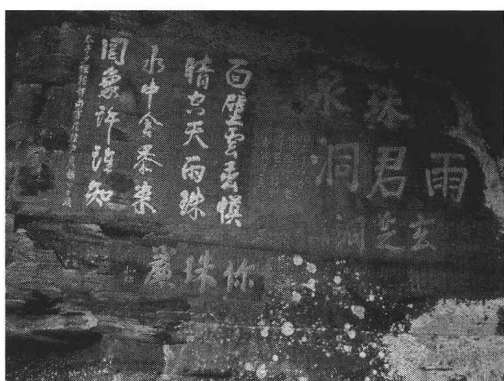
天師求在符ほか



衆妙之門拡大



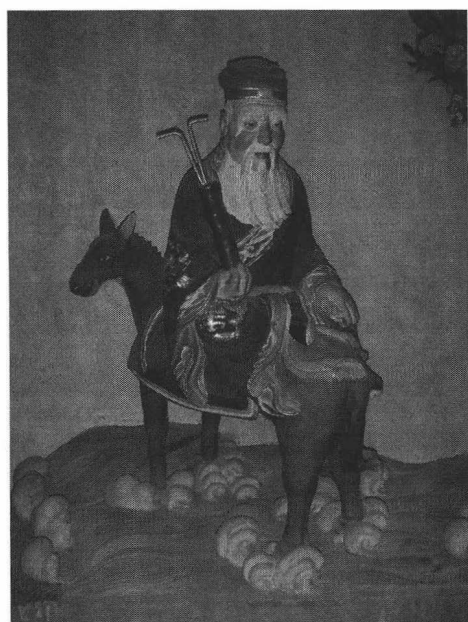
おみくじ



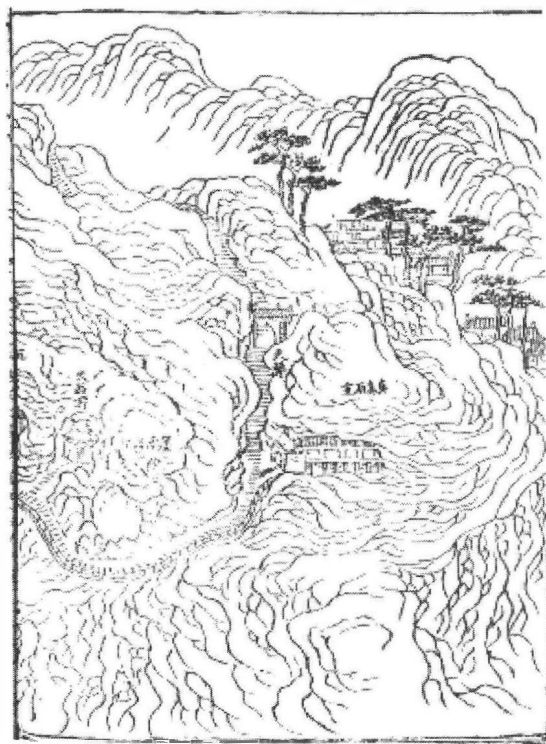
雨君洞



神像



八仙 張果老



齊雲山志 嶽図八『中国道観志叢刊 10』より。左図の上方に真仙洞府と見える。
写真の場所にほぼ対応している。